

第2回市民公益活動サポートセンター運営協議会会議概要

- ◎日 時 : 平成28年3月16日(水) 16:30~18:00
- ◎会 場 : 佐倉市役所社会福祉センター3階中会議室
- ◎出席委員 : 森田委員、大川委員、大木委員、岩崎委員、高梨委員、網仲委員、固本委員、土屋(志)委員、佐川委員、土屋(登)委員
- ◎事務局職員 : 坂上市民部長、井岡自治人権推進課長、鴨志田班長、小田主査補、久保主査補、山本主事
市民公益活動サポートセンター指定管理者 佐倉市社会福祉協議会
兼坂事務局長、高野センター長
- ◎議題 ①会議公開について
②市民公益活動サポートセンター27年度企画事業報告について
③市民公益活動サポートセンター28年度企画事業計画について

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市民部長あいさつ
部長: 省略
4. 委員自己紹介
5. 市民公益活動サポートセンター運営協議会の概要説明
事務局: 省略
6. 委員長、副委員長の選出(正副委員長挨拶)
7. 協議事項

委員長: それでは、協議事項に入らせていただきます。

佐倉市市民公益活動サポートセンターの管理及び運営に関する規則第12条第2項に、「会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない」と定められております。本日は、定数10名のところ10名の出席でございますので、会議が成立しております

ことをご報告申し上げます。

本日の会議内容は「市民公益活動サポートセンター企画事業平成27年度報告と平成28年度計画」についてでございます。これについて、皆様のご意見を伺いたいと思いますが、まず資料の説明について事務局にお願いします。

事務局：お手元の資料のとおり、市と指定管理者の間で結んだ協定書において定められている事業項目に伴い、指定管理者の裁量によって事業計画を立案しております。なお、昨年10月に開催した第1回運営協議会の中間報告において、委員の皆様よりご指摘いただきました事項について確認をさせていただきます。

- ①「全体交流会」は1回だけの単発事業で終わらず、2回3回と継続したらどうか。
- ②「分野別交流会」は2年連続で環境問題（印旛沼がテーマ）に実施しているが、来年度以降他の分野も検討した方が良い。
- ③「市民活動フェスタ」では会場内の人の流れをもう少し工夫した方が良い。
- ④「出会いフォーラム」は対象を順天堂大学だけでなく、市内の敬愛短期大学へもアプローチした方が良い。

以上のようなご意見をいただいております。これらご意見の改善等がなされているかなどを踏まえまして、報告をお聞きいただければと存じます。

センター長：「市民活動団体のつどい」は、27年度2回実施しました。1回目は前回10月の中間報告したとおりです。第2回目は12月23日に18団体27名の参加を得て、「市民協働、団体運営について」をテーマに実施しました。

28年度は1回目を6月頃に予定し、前回同様テーマを設定して行い、2回目は各団体が抱える課題や問題の取り組みなどについて、意見交換、情報交換を行う交流会を実施したいと思っております。

「テーマ別交流会」は2月14日に実施しました。内容は「地域安全活動の現状と課題」をテーマに7団体13名の参加を得ました。28年度は「子どもの健全育成、福祉関連分野」をテーマに行う予定でおります。

「分野別交流会」は7月27日に「印旛沼の環境の保全活動分野」の3団体に案内係を依頼して、千葉県内水面水産研究所にて実施しました。参加者は12団体17名でした。28年度は、「健康」をテーマに、地域の再発見の旅といった事業を通じて交流を深める機会とします。

委員：「全体交流会」ではカフェ型という形式で実施したようですが、参加者からの意見はどのようなものでしたか。

センター長：テーマとして「①団体にとってのサポートセンター」「②理想の団体像」「③市民

活動フェスタ」の3つで実施し、交流を含める中で様々な意見が出ました。事業後アンケートからも参加者から好評を得ております。

委員：昨年度は1回目が単に市民活動フェスタの反省会だったので、今年の内容は充実していたかと思います。来年度はどのような内容で実施の予定ですか。

センター長：今年と同様3つのテーマを設ける予定ですが、テーマは変える予定です。

委員：登録団体対象の事業として、フェスタが一番良い交流となっているので、市民活動フェスタのテーマは必要かと思います。一方で理想の団体像は難しいテーマだと感じます。

委員：テーマはもっと掘り下げた方が良いと感じます。客観的視点からの意見をもらう①は外せないですが、②については団体によって運営形態は様々であることから、共通の課題になりえないと感じます。全体交流会という事業なので、共通の課題を設定した方がよいと思います。

委員：団体を継続していくためには幅広い世代の絡みが重要です。新規会員に入っていたくためにどのような試みが必要かといったことを考えるテーマはいかがでしょうか。

委員：テーマに変化を持たせないと、参加者に同じことをまた話すのかと思われてしまい、交流に発展しないこともありえます。1回目、2回目と連動感を持たせて実施するように工夫が必要です。

委員：フェスタの参加団体間で温度差があるので、前哨戦的な意見交換があるとよいと感じます。

委員：テーマ別交流会ですが、「子ども健全育成」と「福祉関連分野」の2つのテーマを一緒に行うようですが、どのような内容を予定されていますか。

センター長：子ども貧困問題、子どもの預かりなどの活動発表をしていただく予定です。いずれにしても本事業は交流会が目的ですので、それぞれの分野における問題点や課題を解決するために行うものではありません。

委員：登録団体の数から考えると、参加団体、参加者ともに少ないと感じます。参加促進の工夫が必要ではないでしょうか。

センター長：分野別交流会は分野を特化して行うものですが、分野を狭めることによって参加者が少なくなってしまうので、分野を超えて参加を促しております。テーマ別は、交流会を全面に押し出して行っております。

委員：広報なども工夫が必要だと感じます。

センター長：いかに伝えるか、伝わるかというのが課題ですが、我々も苦慮している部分です。今後、メールで情報が欲しいという団体もありますので、チラシだけでなくそういう方法も取り入れていきたいと考えております。

委員：メール発信という話ですが、団体の個人に送って欲しいという要望はありませんか。

センター長：個人要望は今のところありません。現在は団体の長あてに一斉メールをしているところですが、団体に送ってそこから会員に送っているというのが現状ですが、会員に届いていないところもあるようです。

委員：会員個人に送ることは可能でしょうか。

事務局：個人メールアドレスの収集方法等を含めて今後の検討課題とさせていただきます。

委員：企画段階なのでイメージが湧きませんが、この資料の内容だと伝わらないので、明確にわかりやすく謳ってあげないと参加に繋がらないと思います。参加すれば「達成感やメリットがある」といった相手側の視点に立った広報にするよう工夫が必要です。

委員：参加者が多いか少ないかで考えれば、せつかく良いことをするので多くの参加が欲しいです。

委員：広報チラシを見てくるかということ、実際は課題意識をもっている団体だけ、いつも同じ団体ということもあるので、普段参加しない他の団体の参加を促すような次の段階を考えた方がよいと思います。

事務局：サポセン事業はカルチャー講座やお楽しみイベントではないので、参加者を集めるのは本当に難しい問題です。委員からご意見いただいた「参加者側の達成感やメリット」といった点は大事な視点かと思っておりますので、広報作る上でそのあたりを工夫していきたいと思っております。

委員長：2ページ目について説明してください。

センター長：ポスター展は5か所の会場で実施しました。28年度も同等のものを行う予定で、新たに志津コミセンでの開催も予定しております。

市民活動フェスタは11月22日に中央公民館で行い、延べ2,200名の参加がありました。28年度については、模擬店の飲食物提供は避け、本来の開催目的を明確にすべく、中央公民館内の活動発表を重点に開催する予定です。

出合いフォーラムについては1回目を市民活動フェスタの中で行い、12団体が参加しました。2回目は、順天堂大学協力のもと3月22日に実施予定で、4団体を分野別に抽出し、大学生との交流を図ります。28年度は敬愛短期大学で同様の内容を行い、2回目をフェスタの中で実施する予定です。

委員長：市民活動フェスタは大幅な内容変更があるようですが、経緯を踏まえて、詳しく教えてください。

センター長：フェスタは本来の目的に沿ったものに変える予定です。フェスタはお祭りとしては成功ですが単に地元のイベントと化しています。市民に対する市民活動へのPR・発表・参加促進に立ち返りたいと考えております。

事務局：模擬店出店については保健所への届出の問題があります。保健所として原則米飯の提供は禁止であり、加熱処理の食提供は届け出れば出店も可能ですが、本年度、団体にこの旨を伝え、義務化への徹底を促しましたが、実際は2件しか検便検査の届出をしておりませんでした。こういった相手を信用して届出を促す手法は難しいという点と、そもそも模擬店が団体の発表といえるのかなど、様々な問題があることから来年度は模擬店を避ける開催を検討しております。

委員：出店の希望があつて各団体が販売している。当然のことながら安全衛生上厳格な対処は必要であり、これが守れないのであれば変更もやむを得ないです。来年度模擬店を禁止するのであれば、スタートラインから変更をはっきり周知すべきです。

委員：本年度フェスタに参加しての感想ですが、模擬店の出店で参加して、実際には大変忙しく、他のブースを見る時間がまったくありませんでした。団体間の交流という意味では難しかったです。また会場についても志津地区を中心に活動する団体にとっては、中央公民館は遠いので足を運ぶのは難しいです。中央公民館に限定するのではなく、他会場での開催も考えた方がよいと感じました。

委員：確かに開催場所にも課題があると思います。シルバー人材センター主催、お伊勢公園が会場のシルバーフェスタは3,500人の来場者があり、それに繋がっているのは場所だと思います。

委員：フェスタ会場では、子どもの数が大変多いと感じました。それに付き添う形で親や祖父母などが参加しているように見えました。

センター長：来場者が多いことは大変いいことですが、飲食がメインになって、本来の目的がおざなりになっては良くないと感じています。参加団体からも模擬店は人が多くて、中央公民館内は人が少ないといった声もありますが、実際には、団体それぞれの見せ方によって参加者の数が変わってくるものだと考えています。単にブースを出すだけで、そこを意識しないでやっている団体も多いので、今一度本来のフェスタの開催目的に立ち返って開催していきたいと思います。

委員：来場者の多い少ないは大変重要なことです。フェスタの目的は団体交流ではなく、いかに一般市民に市民活動に関心を持ってもらうことにあります。その上で模擬店の出店の有無は重要な点です。

委員：模擬店で飲食を提供している団体はただ飲食の販売をしているだけで、その団体が普段はどんな活動をしているかといった活動発表をしていないように感じました。たとえば販売と同時にチラシを配布するなど団体の紹介くらいはすべきだと思います。

事務局：公の施設で実施する事業である以上、保健所の問題は避けて通れません。模擬店の飲食物に変わるものの工夫も必要であり、飲食物提供についてはあらゆる方策を検討していきます。ただし、企画運営はあくまで実行委員会で決めるものなので、その点はご了承いただければと存じます。

委員長：この場で模擬店の飲食提供の有無について意見をまとめたいと思います。

委員：フェスタ来場者の対象は誰なのかを考える必要があります。大人が対象なら飲食はいらないと思いますし、対象が子どもなら飲食は必要だと思います。

委員：来場者の人数が多いか少ないかだけで判断しないで進めてもらいたいです。

委員長：時間の関係もあるのでこの辺りで終わりますが、事務局は今日の意見を踏まえて慎

重に進めてください。

委員長：3ページ目について説明してください。

センター長：パソコンスキルアップ講座については、前回協議会にて報告した通りです。来年度のパソコン技術の講習については、後に申しあげますが、相談事業に振り替えて実施する計画ですので、来年度のリーダー養成講座は「話し方講座」と「チラシづくり講座」を実施予定です。

ボランティア講座では、リーダー養成講座として講師に富士福士事業団の枝見氏をお招きして団体運営等のご講義をいただきました。来年度は同テーマで講師を変えて行う予定です。

委員：参加すれば大変有意義な講座が多いのに参加が少なくもったいないです。もっと参加できるような講座にしてもらいたい。

センター長：他の講座も同様、参加者が少ないことはサポートセンター側も苦慮しております。今後も参加者にとって魅力ある内容になるよう広報も含めて工夫してまいります。

委員：フェスタに話を戻して申し訳ないです。過去に自身も参加していますが、模擬店の出店にはこれが本当に活動発表なのかと違和感を持ちました。こういった声があるなら改善も必要ではないでしょうか。また、話し方講座ですがテーマが「会話力」と漠然としているので、提供側のねらいと参加者の受取側に温度差が生まれないように広報などでうまく伝えることが必要です。

委員：佐倉商工会議所においても会員向けに様々な講座を開催していますので、講座内容や講師選定についても参考になされたらいかがでしょうか。

委員長：4ページ目について説明してください。

センター長：広報紙発行事業として「サポセンだより」を年4回、5,500部発行しており、本年度よりすべてカラー印刷で発行しております。

相談事業については毎月、第1月曜日を「なんでも相談会」として位置づけ実施しましたが、利用者も少なく、通常業務の相談で収まってしまうこともあり、来年度はパソコンの相談に絞って「パソコンなんでも相談」として実施いたします。2回目は助成金講座を行いました。参加者の要望も多く関心も高いため、来年度も継続したいと考えております。

委員：サポセンからのお知らせ、広報は「サポセンだより」だけでしょうか。

センター長：事業ごとに別途チラシを作成し、配布しております。また、ネット上で市民活動情報サイトを運営しております。

委員：「サポセンだより」の記事中に情報サイトのページ紹介、案内などを入れたらいかがでしょうか。

委員：「サポセンだより」に毎回「パソコン相談事業」について入れていただきたい。

委員長：他にご意見がなければ本日の会議を終了いたします。委員の皆様におかれましては、長時間にわたる協議にご協力をいただきまして、ありがとうございました。

8. 閉会

事務局：長時間にわたり、ご協議ありがとうございました。本日いただいたご意見、ご提案の内容を踏まえまして、今後のサポートセンターの事業に生かしてまいります。それでは以上をもちまして、平成27年度第2回市民公益活動サポートセンター運営協議会を閉会いたします。

平成28年3月31日

議事録署名人

委員長 森田 敬介

委員 大川 義郎